

令和4年11月16日



洲崎で在来種の植栽

父島の洲崎地区において、小笠原総合事務所国有林課の職員と共同で在来種の植栽を行いました。この周辺は外来種のトクサバモクマオウをはじめとする外来種の宝庫です。その中でも、トクサバモクマオウは多くの落葉で土を覆ってしまうので、他の植物がなかなか芽生えてきません。そこで職員により、在来種を植える取組を定期的に行っています。

他の外来種植物駆除地においても、外来種を駆除した跡に再び外来種が侵入する事例が多く、こうした苗の植栽や種まきを行い、苗木を生長させ外来植物が侵入できないような状況にしていくことが在来林復活への近道となります。



タマナ（テリハボク）の苗木を植栽



小笠原でおなじみの
タコノキ。
村の木にも指定され
ています。雌雄異株
で大きな果実や支柱
根が特徴です。

タコノキの苗木を植栽